

僕は兄さんだ

小川未明

青空文庫

「お母さん、ここはどこ？」

お母さんは、弟の赤ちゃんに、お乳を飲ませて、新聞をごろんになっていましたが、義ちゃんが、そうだったので、こちらをお向きになって、絵本をのぞきながら、

「さあ、どこでしょう。きれいな町ですね。義ちゃんも大きくなったら、こんなところへいつてごらんさい。」と、おつしやいました。

「お母さん、この大きなお魚は、なんというの？」と、義ちゃんが、またききました。お母さんは、

「このお魚ですか。これは、たらといって、北の寒い海にすんで

いるのですよ。」と、おつしやいました。義ちゃんが、お父さんから買っていただいた、絵本をねっしんに見ていますと、もうお乳をたくさん飲んだ赤ちゃんは、こちらを見て、不思議そうな顔つきをして、きれいなご本を見ていましたが、かわいらしい手を出すと、ご本をしつかりとつかんでしまいました。

「お母さん、たいへん、僕の大事なご本を繁さんが、取ってしまった。」と、義ちゃんは、わめきました。

お母さんは、びっくりして、どうかして、小さな繁さんの手をご本から離させようと思いました。なんととっても繁さんは、はなしませんでした。

「いい子だから、義ちゃん、すこしかしておいてくださいね。い

まじきにはなすから。」と、お母さんかあは、おっしやいました。

繁さんしげるは、ご本ほんをめずらしそうにながめていましたが、そのうちこれをお口くちに入れていなめようと思いました。

「あ、お母さんかあ、なめますよ。僕ぼく、もうきたなくしちゃったからいやだ。」と、無理むりにそのご本ほんをひったくりました。すると、今度こんど、赤ちゃんあかは、大おお声こえを上げて泣なき出だしてしまいました。お母さんかあは、お困こまりになりました。

「さあ、チンチンゴーみを見てきましようね。」と、泣なき叫さけぶ、赤ちゃんあかを抱だいて立たち上あがられました。

「お母さんかあ、どこへゆくのか？」と、義よしちゃんかあは、もはやご本ほんどころではありません。それよりも、やはりお母さんかあといっしょに、

電車を見にゆきたかったのです。

「繁さんが、きげんを悪くしたから、すこし外へつれていってく
るのですよ。あなたは、お家に留守をして、ご本を見ていらつし
やい。」と、お母さんは、おつしやいました。

義ちゃんは、自分がわるくないのに、なぜこんな結果になった
のだろう。ご本を見ることよりは、お母さんとごいっしよに、外
へいって見たほうが、どれほどおもしろいかしれぬと思ひました
から、

「いやだ、僕もいっしよにゆくんだよ。」と、義ちゃんは、泣き
出しそうになりました。

「困りましたね。じゃ、あんたもいっしよにいらつしやい。ご本

をちやんとしまつておいでなさい。」と、お母^{かあ}さんは、おつしや
いました。

外^{そと}へ出ると、冬^{ふゆ}の日は、暖^{あたた}かそうに枯^かれ草^{くさ}を照^てらして
いました。ある家^{いえ}の横^{よこ}を通ると、前^{まえ}の圃^{はたけ}にさくがしてあつて、鶏^{にわとり}がたくさん
遊^{あそ}んでいました。

もう、お母^{かあ}さんに抱^だかれている、小^{ちい}さい弟^{おとうと}の繁^{げん}さんも、後^{あと}から
ついてきた、義^{よし}ちゃんも、うれしそうな顔^{かお}つきをして、元^{げん}気^きであ
りました。しばらく立^たち止^どまつて、鶏^{にわとり}の遊^{あそ}んでいるようすを見^み
いますと、けんかをせず、一^{いっ}つの餌^えを見^みつけても、たがいにつ
つき合^あつて、仲^{なか}よくそれを食^たべていました。

これを見^みた義^{よし}ちゃんは、

「お母さんかあ、おりこうの鶏さんにわとりですね。」と、感心かんしんして、いいました。

「それごらんなさい。赤ちゃんあかは、小さいちいのだから、気に入らぬことがあつても、しかつてはいけませんよ。」と、お母さんかあは、おつしやいました。なんにもわからない、小さいちい繁さんしげるは、ただ、鶏にわとりの動くのを見てうれしそうに、きやつきやつと喜よろこんでいました。それから、町まちへ出でて、電車でんしゃを見みました。

「チンチン、ゴーゴー。」といつて、赤ちゃんあかは、いつまでも帰かえろうとはしませんでした。義ちゃんよしは、早くはやお家うちへ帰かえつてご本ほんが見みたくなりました。やがて、帰かえつてから、赤ちゃんあかが、義ちゃんよしの大事だいじなおもちやや、ご本ほんをいじつても、いままでのように怒おこら

ずに、笑^{わら}って見^みていましたから、

「なんて、義^{よし}ちゃんは、いいお兄^{にい}さんでしょう。」と、お母^{かあ}さんは、おほめになりました。

「そうだ、僕^{ぼく}は兄^{にい}さんだもの。」と、義^{よし}ちゃんは、はじめ^{つよ}て強く^{こころおも}心に思^{おも}いました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「僕《ぼく》は兄《にい》さんだ」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年5月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

僕は兄さんだ

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>